

平成 30 年度夏期産米改良座談会資料

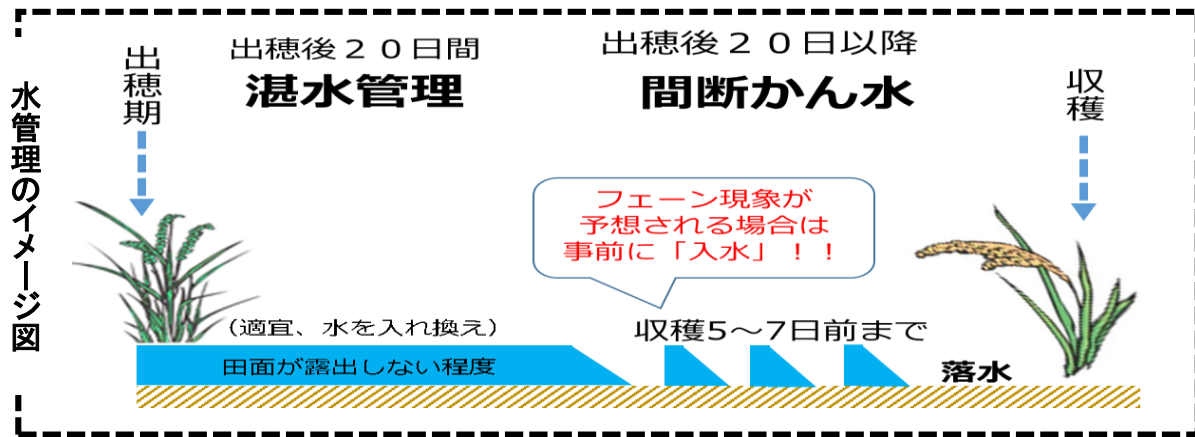
なのはな農業協同組合
富山農林振興センター

～「H30JAなのはな米品質向上運動」実施中～
産地として選ばれる“なのはな米”1等比率95%以上を目指して

水稻の出穂は、梅雨明け後の猛暑で全般的に平年より早く、このまま推移すれば収穫も早くなることが予想されます。
今後も高温が見込まれており、「白未熟粒」や「胴割米」の発生が懸念されます。引き続き、適切な**水管理の徹底**により最後まで稲体活力を維持し、発生を抑えましょう。
さらに**適期刈取**や**適切な乾燥調製作業**で高品質な「なのはな米」に仕上げましょう。


1 出穂後の水管理 ～きめ細かな水管理を徹底し、最後まで稲体活力を維持！～

- (1) 出穂後20日間は**湛水管理**とし、田面が露出しない程度の湛水状態を保ちましょう。
- (2) 出穂後20日以降は、刈り取りの5～7日前まで**間断かん水**に努めましょう。



※「フェーン現象予測」は、NOSAI とやまのホームページに掲載(「NOSAI とやま気象情報フェーン現象・予測」で検索)

2 適期刈取 ～早刈りや刈り遅れは厳禁！計画的に収穫作業を!!～

| | | |
|----------------------------|----------------|---|
| 胴割米の発生要因 | 対策 | 嫌われ者の胴割米を |
| 1 刈り遅れ (収穫時期のフェーン現象で増加) | →→ <u>適期刈取</u> |  絶対出さない!! |
| 2 稲体の活力低下 | →→ 水管理 | |
| 3 登熟初期の高温 | | |

登熟期間中が高温になると籾の黄化が促進されるとともに、外見(籾)以上に玄米の青みの抜けが早くなる傾向があります。
砂壤土や枯上がりの早いほ場から刈り始め、刈り遅れによる胴割米の発生を防ぎましょう。

高温年は
早めに開始

表1 刈取始期の目安

| | 高温年 | 通常年 |
|-------|-----------------------------|---|
| てんたかく | 籾黄化率80%～ 出穂後32日頃～ | <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> |
| コシヒカリ | 籾黄化率80%～ 出穂後35日頃～ | |
| | | 籾黄化率85%～ 出穂後41日頃～ |

※高温年：出穂後20日間の平均気温が28℃以上の年



籾黄化率の目安

点線内の2次枝梗籾が黄化した時が籾黄化率85～90%

【収穫作業時の留意点】

- ① クサネムの種子が米に混入すると、調製作業で除去することが困難になります。収穫前に必ず抜き取りましょう。
- ② 朝露が完全に落ちて、籾がさらさらした頃から収穫を開始しましょう。
- ③ 畦畔沿いに褐変籾が多く見られる場合は、畔まわりの収穫から調製までを別扱いとし、着色米の混入を防ぎましょう。
- ④ 収穫後は、ヤケ米の発生を防止するため、4時間以内に籾を乾燥機に張り込み、送風しましょう。



3 適切な乾燥調製

～玄米水分は 14.5～15.0%に！胴割米・過乾燥米の発生を防止!!～

(1) 乾燥作業時の留意点

- ① 籾の張込み直後は籾水分のバラツキが大きいので、2～3時間程度は通風による乾燥を行きましょう。
- ② 機種に指定されている温度設定と張り込み量を守り、ゆっくり乾燥しましょう。
- ③ 青米の混入程度を確認し、表2を参考に乾燥機の停止水分を設定しましょう。
- ④ 玄米水分が17%を切ったら、手動の水分計でこまめに測定し、過乾燥にならないよう注意しましょう。

表2 乾燥機の停止水分判定の目安

| 100粒中の青米数 | 乾燥機の設定停止水分 | 乾燥機停止後の水分変化 |
|-----------|------------|-------------|
| 0～5粒 | 15.0～15.5% | 乾く(-0.5%) |
| 6～10粒 | 14.5～15.0% | ほとんど変わらない |
| 11粒以上 | 14.0～14.5% | もどる(+0.5%) |

(2) 調製作業時の留意点

- ① ゴムロールが減ったり、硬くなったら交換しましょう。
- ② 籾摺りは、砕米や肌ずれ米の発生を防ぐため、乾燥後2～3日置いて玄米水分が均一になってから実施しましょう。
- ③ 選別は、1.9 mmの篩目を使用し、くず米の完全除去のため適正な流量を守りましょう。



収穫・乾燥調製機械の点検・整備は早め・確実に！

まだまだ農作業中の熱中症に注意！

◎収穫作業時の安全確保

毎年、秋の農繁期には、コンバインによる農作業中の事故が発生しています。余裕をもった作業計画を立てるとともに、以下の事故防止対策を徹底しましょう。

～コンバイン事故を防ぐポイント～

- ① 詰まったワラを取り除くときは、**必ずエンジンを切り**ましょう。
- ② あぜ越えをする時には、**低速で、あぜに対して直角に進む**ようにしましょう。
- ③ **後進時には、死角**が多いので注意しましょう。

※作業後は、機械の劣化や異品種混入・害虫発生防止のため速やかに清掃しましょう。

初心に戻って安全な農作業を心がけましょう。



秋の農作業安全運動実施中(8月20日～10月20日)